

「起こってはいけなかった悲劇～戦争～」

土崎中学校 1年4組 戸嶋 心和

「ひいおじいちゃんは満州に行った。」私は何度も、祖父の家に遊びに行くたびにそう言われていました。

祖父の家の仏だんに、一枚の白黒写真がかざってあります。私の曾祖父です。私の曾祖父は、戦争に行ったと父から聞きました。満州に行って、帰ってきたものの、病気で三十歳くらいで亡くなったそうです。まだ一歳だった私の祖父を残して…。「ひいおじいちゃんはどんな人だったの？」そう聞いても、誰も分かりません。私の曾祖父のように亡くなり、家族や、大勢の人の死を悲しんだ人が、この世に何人いたのでしょうか、戦争で起きた悲しみは、今も心に残っていることでしょう。

私には、もう一つ知っていることがあります。「土崎空襲」です。曾祖母の体験談を聞かせてもらいました。私の曾祖母は、男鹿市（旧若美町）に住んでいるのですが、千九百四十五年、八月十四日～十五日の未明にかけての戦争が、男鹿市からでも見えたといいます。赤い火の手が上がり、土崎の方だけとても明るかったといいます。「こっちにも来るかもしれないぞ!!」と叫ぶ人や、荷物をまとめる人、逃げ出す人もいたそうです。「土崎空襲」では、たくさんの方が、けがをし、亡くなりました。いつも遊んでいるあの公園、思い出の場所が一夜にして、激変してしまいました。爆弾の破片や、亡くなった小学生が着ていた学童服が、痛々しいあの日の出来事を今も語っています。そして、多くの人々が、「平和」が続くことを願っているにちがいません。

世界には、まだ「核兵器」があります。争わなくても解決策はあります。世界には様々な問題がありますが、「平和」だけは、守っていきたい。「平和」は、平和を願う人がいるからあるのだと思っています。「戦争」を後世へ語り継ぎ平和を願う人が増えれば、いつまでも平和は続くと信じたいです。